

両親学級・児童クラブ・児童育成会

特集

厚別区の子育てサポート



夫婦でお風呂の入れ方を実習している様子

核家族化が進むと共に、夫婦共働きの家庭が多くなっています。夫婦にとって地域の子育てサポートは大切な問題。そこで、札幌啓成高校新聞局が厚別区内で行われている子育てサポートから3つ取材しました。

両親学級

厚別保健センターで行われる両親学級は、初めて子どもを出産する夫婦を対象に行われています。両親学級は年四回開かれ、区内対象者の30%前後の方が参加しています。初めに父親の役割を学ぶ

ビデオで学習した後、赤ちゃんのお風呂の入れ方や着替え、抱き方を人形を使って実習します。

また、夫に妊娠八〜九カ月ごろの妻の状態を知ってもらうための妊婦体験ジャケッットや、受動喫煙の危険を学ぶために呼気中の一酸化炭素濃度を測定したりもします。働いている方も参加しやすいように夜間に開催されています。

両親学級のお知らせは母子健康手帳と一緒に渡すなどの方法でお伝えしています。

厚別保健センターの助産師川代久実子さんは「祖父母など、サポートしてくれる人が身近にいないと、夫婦のみで子育てしていかねばならない方は、特に参加して欲しいです」と話しました。



局員もベビー服の着せ方を学んだ



局員もジャケットを着用

まず、腰痛防止のため腰にサポーターを巻き、その上から重りの入ったジャケッットを着用。七・二キロの重さがあり、妊娠八〜九カ月の状態と

局員体験

妊婦ジャケッット

同様です。通常の歩行や階段の昇降は比較的つらくは感じませんが、床に落ちた物を拾うのは、おなかが大きいのので普通にかがむことができず大変でした。

人形に服を着替えさせる体験もしましたが、か弱い赤ちゃんの腕を脱臼させないように、袖に腕を通させるのは、意外に難しく、苦労しました。



男性顧問も妊婦体験

参加者の声

お風呂はパパが

- 20代夫：実習でお風呂の入れ方を学んだので、子どもが生まれたら自分がやろうと思いました。他のお父さん方にもこういった事があることを知り、もっと利用してほしいと思います。
- 30代夫：いろいろ勉強しようと妻から言われ、参加しました。実習をやってみて、見るのとやるのでは違うと思いました。
- 30代夫：着替えやお風呂は慣れるまで大変そうという印象を受けましたが、頑張ろうと思いました。
- 20代妻：夫に妊婦体験をしてもらう機会はないので、両親学級に参加してよかったと思います。
- 30代妻：ビデオを見て、子どもにとってお父さんの役割は重要だと思いました。